

講演会のご案内

名古屋プラザワイズメンズクラブ

会長 島崎 正剛

プラザクラブの4月第1例会は、中日新聞の女性記者・池田千晶氏を講師にお迎えして講演会を開きます。彼女は現在名古屋市庁詰のデスクを務めておられ、河村市長と市議会との攻防や今回の選挙など、記事に書けない裏話が拝聴できるかもしれません。クラブメンバーだけでは“勿体ない”ので、みなさんも一緒にいかがですか。ご家族、ご友人などお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

演 題：戦い済んで日が暮れて—名古屋市議会選をふりかえる（仮称）

講 師：池田千晶氏（中日新聞記者）

日 時：4月7日（木） 午後6時45分～

会 場：名古屋YMCA会議室

費 用：1000円／人（お食事代）・会場で徴収させていただきます。

申 込：電話またはファックスで名古屋YMCAの万福寺まで、参加される方のクラブ名、お名前、人数をお知らせください。締め切りは3月31日（木）午後5時までとします。

TEL. 052-932-3366 FAX. 052-932-5541

池田千晶氏プロフィール・1989年（平成元年）中日新聞に入社、同年彦根支局に配属後、東京本社、大阪支社、名古屋本社に異動、05年9月から3年間ロンドン特派員を務め、08年名古屋本社に戻り社会部を担当。現在、名古屋市庁詰で市議会のあり方などを記事にする。

◆裏面は09年3月例会で講演していただいた内容をまとめたものです。（09年4月号ブリテンより転載）

講演：「ノーベル賞物語」

昨年10月7日ノーベル物理学賞に米国籍の南部洋一郎、小林誠、益川敏英3氏の発表がありました。小林、益川の両氏は名古屋大学の卒業生であり、地元新聞社として以前から「ノーベル賞受賞の可能性のある人」を予想して2人の業績や写真など完璧な予定稿はありましたが、さらに記事を補足するために発表と同時に社会部全員がご家族やご近所の方、お友だちにインタビュー取材などをして最終締め切りを過ぎた2時に送稿する慌しさでした。翌8日にはノーベル化学賞をボストン大学名誉教授の下村脩氏が受賞、全くノーマークのためネットで検索すると名古屋大学で理学博士を取得されている。地元紙として見過ごすわけにはいかず、いろいろ手を尽くして調べて発表から2時間後には30本ほどの原稿が出来上がっていました。

取材で苦労したのは02年ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんのときでした。当時、カーボンナノチューブの発見者飯島澄男 NEC 研究員をマークして、ノーベル賞発表当日は各新聞社の記者が NEC の本社に詰め掛けていましたが、予想に反して？ 田中さんの発表に動転した記者連中は、関係のない NEC の広報の人に「田中耕一って誰ですか」と詰問するトンチンカンな場面がありました。当然知る由もなく、帰社後ネットで調べた「愛媛大の田中耕一さん」に電話すると「あなたで10人目です」の返答、同姓同名の人違いだった、という苦い思い出があります。

小澤さんのお友だち、小出常務から出た案を尊重して、12月のノーベル賞授賞式の日に合わせて連載記事を書くことになりました。取材はまず地元縁の深いお2人の周辺の方々、家族、親類縁者、幼稚園から大学までの友だちや同級生、学校の先生など1ヶ月の間に40人ほどの方とお会いしていろいろなエピソードを聞き出し、それを本人に確認する作業を進めました。ときにははっきり覚えていない事柄もありましたが、「そうかなあ」と曖昧な返事でも「あったこと」にした。たとえば小林さんが中学1年生のとき、恩師に版画の年賀状を送ったことをお忘れでしたが、現物があることで記事にしました。

2才の時に父を亡くした小林さんは、母と2人だけの暮らしのためか、小さいときから「しっかりしなければ」、「こうあらねば」の意識が常にあったようです。「影響された先生とか本はありますか」の質問に全く無関心で、良くも悪くも周りに影響されない生き方をしてきた、という感じです。

一方益川さんはユニークな方で奥さんと一緒に取材したとき、質問をするとしばらく黙ることがあり、奥さんが「何か面白いことを言おうと考えている」と半畳を入れるほど。自分の話しに周りはどう反応するだろう、と計算しながら質問に答える、少々神経質な人のように感じられました。

今回の取材を基に昨年12月、「ノーベル賞物語」の題で連載いたしました。大幅加筆、授賞式ときの講演や写真などを加えて本になります。お買い上げ、よろしく願いいたします。(櫛田 守隆)